

2023年12月期 通期決算説明会 質疑応答の要旨

2024年2月8日に開催した2023年12月期 通期決算説明会(機関投資家・アナリスト・報道関係者向け)における主な質疑応答の要旨は下記の通りとなります。

Q1. 新たな経営体制について

A1. 今回、新たに当社の取締役として選任予定の神埜、清水の両名は新卒で当社に入社し、これまでデジタルマーケティング事業の成長をけん引してきた。今後も引き続き、しっかりとこの事業を成長させていける経営体制である、と捉えている。

Q2. 2024年12月期の当期利益の計画について

A2. オーガニックの事業成長と、コミックスマート(株)の株式譲渡による押し上げ効果に加え、電通デジタルを中心とした持分法関連会社からの持分法投資損益を反映した計画となっている。

Q3. 今後の株主還元の考え方について

A3. キャッシュフローの安定的な増加が見込めてきているため、配当性向の引き上げについては今後も継続的に検討していく。事業拡大の進捗を見ながら、株主還元の原資となるキャッシュフローの拡大ペースに合わせて対応していく。

Q4. デジタル広告市場と当社デジタルマーケティング事業の見通しについて

A4. 市場全体としては徐々に回復してきている印象があり、堅調な推移に戻りつつあるなかで、引き続き販促需要の強さが継続しているとみている。2024年の市場の見通しについては様々な市場データを確認しているが、おおよそ1桁後半程度の成長率になるとみており、これをアウトパフォームする成長を目指していきたい。

Q5. デジタルマーケティング事業の各領域について

A5. マーケティング・コミュニケーション領域においては、市場や顧客の状況など様々な場面でマスとデジタルの垣根がなくなっていくという大きな変化があるなかで、この変化に対しては当社のデジタルマーケティング事業が提供するサービスとの相性がよいと捉えているので、引き続き伸ばしていきたい。

電通ダイレクトを中心としたダイレクトビジネス領域については、これまで販促領域を中心に拡大してきたが、このノウハウの顧客への展開、その先のステップとして、自社での D2C 事業への展開を目指している。

中間持株会社であるセプテーニ・データ・ソリューションズの各社が属するデータ・ソリューション領域では、現在、国内外におけるエンジニア組織が数百名体制となっており、このケーパビリティを活かした組織強化、並びに顧客へのサービス開発支援などを拡大させていきたい。

Q6. IP プラットフォーム事業を手掛けるコミックスマート㈱の株式譲渡について

A6. 以前より当社グループ外からの資金調達を進めてきた背景はあるが、今回の新たな経営体制への移行に伴い、デジタルマーケティング事業を中心とした成長を志向し、事業ポートフォリオの変化、ならびにその強化に集中していく方針を決定している。また、IP プラットフォーム事業についても事業展開における様々な選択肢があるなかで、これまで以上に大胆な投資が必要となるフェーズになった場合、デジタルマーケティング事業が生み出すキャッシュフローに大きな影響を与える可能性もあるため、この時点において意思決定している。

以 上